

大田区10か年基本計画 おおた未来プラン10年

後期

平成26年度～30年度

将来像

地域力が区民の暮らしを支え、
未来へ躍動する国際都市 おおた

大田区10か年基本計画「おおた未来プラン10年」は、「大田区基本構想」（平成20年10月14日大田区議会議決）に基づく計画です。将来像の実現に向け、施策展開の方向を総合的かつ体系的に示しており、平成21年4月にスタートしました。

未来プランは、策定当初から社会経済状況の変化に対応するため、平成21年度から30年度までの10か年の計画期間を、前期5年間、後期5年間に分けて計画化することとしています。平成25年度は前期の最終年度にあたり、「おおた未来プラン10年（後期）」を策定しました。

平成26年3月
大田区

TOPICS

未来プラン(後期)は、より区民にとってわかりやすい計画とするため、前期計画策定時には想定していなかったり、対応策が複数の施策にまたがる以下の3つのテーマについては、「トピックス」として、取り組みが一覧できるように整理しました。

1 東日本大震災と新たな被害想定を踏まえ、総合防災力を強化します

東日本大震災の発生や、東京都が新たに発表した被害の想定が拡大*したことから、総合防災力の強化が求められています。

※区内の死者数
平成18年想定:538人
平成24年想定:1,073人
全壊建物
平成18年想定:4.1万棟
平成24年想定:4.3万棟

倒れない・燃えないまちづくり

- 住宅、マンション、緊急輸送道路沿道建築物、橋梁などの耐震化を促進します。
- 木造住宅が密集する市街地の不燃化を促進します。

区の災害対応力の向上

- 区民へのより迅速かつ確かな広報・周知のため、情報伝達手段の一層の多様化を促進します。
- 避難者数23万7千人分の非常用食糧を確保します。

区民との連携による強化

- 自治会・町会に設置される防災市民組織の、設置率100%(217組織)を目標とします。
- 91か所全ての学校避難所の機能を、情報伝達機能と地域活動機能を担う地域の防災活動拠点へと拡充します。



新馬込橋架替工事

2 東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、世界にひらかれた大田区をつくります

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、大会成功に向けた支援はもちろん、その先も見据えた環境整備が求められています。

羽田空港の国際線の発着枠拡大に伴い、国際線を中心に乗客数の増加が予想されます。

区民のスポーツ・健康意識の醸成

- 世界とつながる大田区の地域特性を活かし、国際試合の開催を積極的に推進します。
- 区民のスポーツ実施率を向上します。

外国人等受入れ環境の整備

- 外国人が安心して飲食・買い物などができる店舗や宿泊施設を登録する「大田区ウェルカムショップ」や、「大田区まちかど観光案内所」を拡充し、「おもてなし」を提供します。
- 公共施設や民間施設のユニバーサルデザイン化を推進します。

未帰属地 中央防波堤埋立地で競技開催

- 中央防波堤埋立地では、オリンピックで4競技、パラリンピックで2競技が行われる予定です。
- 帰属問題解決に向け、区民、区議会、行政が一丸となった取り組みを進めます。

オリンピックで4競技、パラリンピックで2競技が予定される中央防波堤埋立地



3 少子高齢社会において、元気と安心を確保します

生産年齢人口は微減する一方、高齢者人口は増加し、高齢化率は平成30年までに23%に達する見込みです。

平成25年4月現在、大田区の待機児童数は、438人です。

子どもを産み、育てやすいサービスの充実

- 妊婦への支援サービスなどを充実します。
- 多様な保育ニーズに対応するために、認可保育園、グループ保育室、小規模保育所など、保育サービス基盤の拡充に取り組み、待機児童ゼロをめざします。

高齢者の社会参加

- 高齢者の豊富な知識と経験、優れた技術や能力を最大限に発揮できるよう、就労や社会参加を促進します。
- 貴重な地域人材として、地域活動に参加し、活躍できるよう、団体などとの連携により、多様な活動・交流の場を確保します。

地域包括ケア体制の構築

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、さわやかサポート(地域包括支援センター)が核となり、住まい・医療・介護・予防・生活支援といったサービスを、適切かつ円滑に受け取ることができる、「地域包括ケア体制」を構築します。

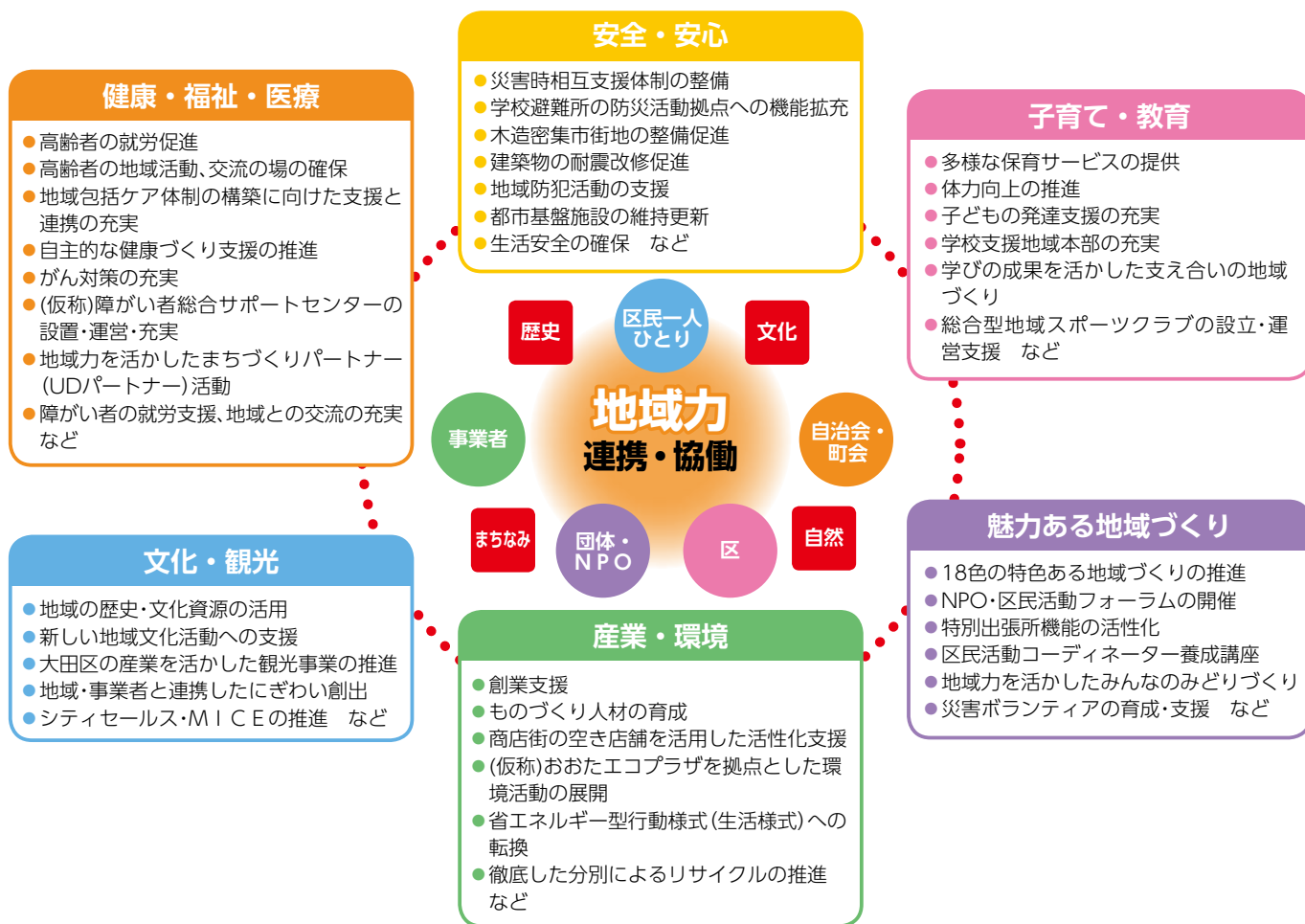


保育園での子どもたち

大田区がめざすまちづくり

「地域力が区民の暮らしを支える おおた」をめざして

安らぎと潤い、安全・安心のまちづくりを18の地域色を活かしながら実現していきます。



「未来へ躍動する国際都市 おおた」をめざして

人・もの・技術を世界に送り出している大田区が、国際都市として都市と人々をつなぐ役割を積極的に担っていきます。



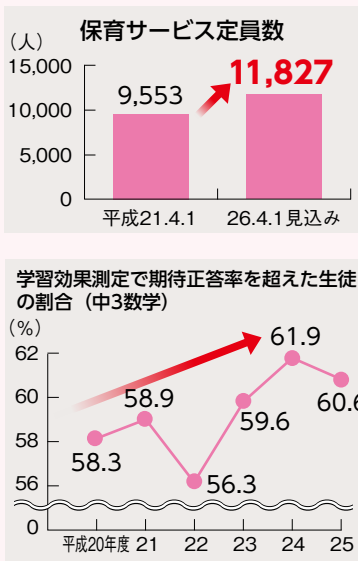
「これまでの成果」と「現状と課題」(一部)

基本目標 1

子育て・教育

【これまでの成果】

- 保育サービス定員数を、2,274人分増加しました。
- 学習効果測定で期待正答率を超えた生徒の割合や、学力・学習状況調査の自己肯定感に関する設問にて、「自分によいところがある」と回答した生徒の割合などが上昇したほか、不登校生徒出現率が改善しました。



【現状と課題】

- 定員の拡充を上回る保育需要が生じたため、平成25年4月時点の待機児童数は438人となりました。待機児童の多くを占める低年齢児を中心に、保育サービス基盤の一層の拡充が今後も求められています。
- 体力テストにおける大田区の子どもの体力合計点が、全国平均値を下回っており、課題となっています。体力は人間の活動の源であり、意欲・気力とも深く関わる「生きる力」に通じる重要な要素です。子どもたちの体力向上をめざし、重点的な施策を展開することが求められています。

保健

【これまでの成果】

- がん、心疾患、脳血管疾患が区民の死因に占める割合は、計画策定時の約60%から平成24年度は約55%に減少しました。

【現状と課題】

- 区の人口動態による死亡統計によると死因の一位はがんです。がんによる死亡者数を減らすために、予防につながる生活習慣の普及啓発や、がん検診での早期発見、早期医療につなげることが大切です。

基本目標 2

都市基盤

【これまでの成果】

- 中心拠点である蒲田駅・大森駅周辺は、ランドデザインを策定し、空港臨海部においてもランドビジョンを策定して、地元団体や関係地権者などと協働でまちづくりを進めています。
- 新空港線整備は、検討と周知を重ねたことにより、区民の期待度が高まっています。
- 貴重な自然環境を保全するための緑地など、大田スタジアム3個分以上に相当する約8.16haを整備し、区民の余暇

活動や憩いの場が新たに作りだされました。



地域の方による花壇管理

- 区の耐震化率は平成21年の79.2%から毎年約2%程度上がっています。
- 都市基盤施設の維持・更新では、平成21年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、対症療法型から予防保全型の維持管理への転換を推進しています。

【現状と課題】

- 空港アクセスの強化策となる新空港線整備は、蒲田駅周辺のまちづくりとの連携により進めることが重要です。大森駅周辺や空港臨海部のまちづくりも関連計画との連携により加速させることが求められています。
- 公園緑地のさらなる魅力アップには、量の確保とともに質の向上が重要です。特に、小規模な公園緑地は「地域の庭・広場」として地域活動に密着

- した空間とする必要があります。
- 木造密集市街地における不燃化率や、建築物の耐震性のさらなる向上が求められています。
- 道路・橋梁・河川など都市基盤施設の維持更新は、区民の安全・安心に直結する重要な課題であり、老朽化の状況に応じて引き続き対策を講じなければなりません。

基本目標 3

地域力

【これまでの成果】

- 地域力応援基金助成事業など各種助成支援により、自治会・町会を基本とした連携・協働の取り組みが広がりました。
- 民間ミュージアムなどと協働して展示会を行うことなどにより、文化施設の公民連携したネットワーク

- ク化への取り組みを始めました。
- 大田区防災対策緊急プロジェクト『大田区総合防災プログラム』を策定し、すべての防災市民組織へスタンドパイプを配備するなど、新たな取り組みを開始しました。
- 防犯対策の実施や、地域・警察との連携強化で、平成19年に1万件を超えていた刑法犯認知件数は、24年には約7,600件まで減少しました。

【現状と課題】

- 地域の課題解決に貢献し、活動している団体の中には担い手である役員の高齢化や若い世代の参加が少ないことなどが課題となっています。地域に目を向ける区民を増やし、地域の担い手づくりに取り組んでいく必要があります。
- 潜在する文化資源を掘り起こし、それらの情報と魅力を効果的に発信し、区民が共有しながら、大田区らしい地域文化を創造していくことが課題です。

- 小中学校等の校舎が、避難所としての役割はもちろん、情報収集伝達機能と地域活動機能を担う地域の防災拠点としての役割を新たに担っていくことが重要です。
- 振り込め詐欺の被害額は約5億円にのぼっています。被害に遭いやすい高齢者を中心に、家族や警察、金融機関などとの連携した対策が求められています。

福祉

【これまでの成果】

- 新規就労の拡大や夜間休日を含めた相談、グループホーム・ケアホーム整備支援（5施設27人）、重度心身障がい者への日中活動の場の拡充など、地域で自立した生活を送るための様々なサービス提供や基盤づくりを進めてきました。
- 介護予防教室や公園体操講座には年間延べ約4,700人が参加しています。講座参加者は計画策定当初の約1.5倍に増加しており、多くの人から体調改善の声が寄せられています。



(仮称) 障がい者総合サポートセンターのイメージ



公園体操講座

【現状と課題】

- 障がい者手帳を所持している人は依然増加傾向で、重度化・高齢化に加え、発達障がいや高次脳機能障がいなど多様化への対応が求められる中、ニーズを的確に把握するとともに、事業内容の拡充などが必要となっています。
- 平成26年度に、区の障がい者施策の中核となる「(仮称) 障がい者総合サポートセンター」を開設します。高度な専門性に基づいた相談支援やサービス提供など、地域の力を結集し支援を進めていくことが重要です。
- 高齢者が良好な健康状態を維持するためには、早い時期から介護予防に取り組むことが重要です。より多くの人に参加しやすいよう、介護予防拠点の多様化や高齢者のニーズにあったプログラムの構築が必要です。

空港臨海部

【これまでの成果】

- 羽田空港跡地は、産業交流施設、多目的広場を核とするまちづくりの概成をめざすこととしました。
- 海辺沿いの散策路整備、都立海上公園の区移管・区立公園としての整備に取り組み、水とみどりの拠点を結ぶネットワーク化を促進しました。



海辺の散策路

【現状と課題】

- 空港跡地は、羽田空港のポテンシャルを活かした跡地計画の具体化が求められています。
- スポーツ健康都市宣言を契機に、空港臨海部の特性を活かしたスポーツ環境を整備することが求められています。

産業

【これまでの成果】

- 企業の区内立地を後押しする「大田区企業立地促進基本計画」が、23区内で初めて国の同意を得ました。この計画による優遇措置などを活用し、区外から区内へ立地した企業と区内で工場を新設・増設した企業は46社*でした。
※平成24年度末現在
- シティセールスを展開し、大田観光協会ホームページのアクセス件数は、平成24年度に前年度比約172万件増の約620万件でした。

【現状と課題】

- 若い新たな経営者が、これまで培われてきた技術・技能を継承しつつ、今後の大田区のものづくりを牽引できるような支援が求められています。
- 全産業へ向けた支援を通じて、ビジネスのしやすい環境整備を実現していく必要があります。
- 大田区がめざす観光は、都市生活そのものを体感する観光です。区民、事業者、団体・NPOなど様々な主体が、それぞれの特性を活かした「おもてなし」を考え、実践することが重要です。

環境

【これまでの成果】

- 太陽光発電システムの設置を平成21年度から24年度までに1,588件助成しました。
- 呑川の水質浄化対策は、東京都や流域自治体と連携しながら、河川対策や下水道対策などの総合的な水質浄化対策の研究・検討を進めています。

【現状と課題】

- 東日本大震災以降、二酸化炭素排出量の多い火力発電への依存度が高まっています。産業と環境の好循環につながる省エネルギー型行動様式への転換を図るとともに、再生可能エネルギーの活用などを推進していく必要があります。
- 呑川の水質浄化は、流域対策による汚濁負荷の軽減や、東京都と流域自治体による「呑川水質浄化対策研究会」の成果を活かした広域的な対策を講じる必要があります。



区内を流れる呑川

区政体制

【これまでの成果】

- 職員の任用、財務、公共施設管理など様々な面から改革を進め、職員定数は、平成21年の4,605人から25年には4,304人に削減しました。

【現状と課題】

- 職員の業務内容は、定型的な事務処理から企画立案、交渉折衝等へ比重が高まるなど高度化しており、一層の能力向上を図る必要があります。

基本目標

1

生涯を健やかに
安心して
いきいきと
暮らせるまち

個別目標1-1

未来を拓き^{ひろ}地域を担う子どもを、
みんなで育むまちにします

1-1-1 安心して子どもを産めるまちをつくります

- 妊娠中の医療・保健体制の充実
- 子どもを産み育てる世代への支援

1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

- 子どもの医療・保健体制の充実
- 子育て相談・養育環境の整備
- 地域における子育て支援体制の充実
- 多様な保育サービスの提供
- 保育環境の充実

1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

- 基礎・基本的な学力を習得する教育の推進
- 豊かな人間性を育む教育の推進
- たくましく生きるための健康・体力をつくる教育の推進
- 教育の質の向上と環境の整備
- 地域力を活かした教育支援

1-1-4 のびのびと成長する子どもを見守ります

- 子どもの権利の確保
- 親子のふれあい、交流の場づくり
- 放課後の安全な居場所づくり
- 青少年の健全育成

基本目標

2

まちの魅力と産業が
世界に向けて
輝く^ま都市

個別目標2-1

水と緑を大切に、すべての人に安全で
潤いのある暮らしを実現します

2-1-1 魅力と個性あふれる都市をつくります

- 国際都市おおたの魅力づくり
- 個性が光るまちづくり
- みんなでつくるまちづくり

2-1-2 快適な交通ネットワークをつくります

- 基幹交通ネットワークの整備
- 地域交通ネットワークの整備

2-1-3 潤いとやすらぎのあるまちをつくります

- 緑のやすらぎ空間づくり
- 水辺のやすらぎ空間づくり
- 水と緑の回廊づくり
- 心に豊かさを感じる美しいまちなみづくり

2-1-4 安全で安心して暮らせるまちをつくります

- 災害に強いまちづくり
- 安全で円滑に移動できるまちづくり
- 安心して暮らせるまちづくり
- 快適な住環境づくり

基本目標

3

地域力と行政の
連携がつくる
人と地球に優しいまち

個別目標3-1

地域力を活かし、人に優しいまちを
区民主体で実現します

3-1-1 地域力の土台づくりを進めます

- 地域の担い手づくり
- 区民活動・地域活動に関する情報の提供

3-1-2 地域力を活かした取り組みを進めます

- 地域活動団体への支援
- 地域ネットワークの強化
- 地域力を活用した施設運営
- 区民施設の有効活用

3-1-3 誰もが暮らしやすい地域をつくります

- 子どもが健やかに育つ地域づくり
- 高齢者の安心を支える地域づくり
- 障がいのある人もない人もともに支え合う地域づくり
- 外国人が安心して暮らせる地域づくり
- 消費者が安心して暮らせる地域づくり

3-1-4 地域文化の創造とふれあいづくりを進めます

- 区民の自主的な文化活動の支援・活性化
- 大田区らしい地域文化の創造
- 国内外の交流から生まれる多様な文化の育成
- 推進体制の整備

3-1-5 地域力を活かし、災害に強いまちづくりを進めます

- 自分の命を守るための対策(自助)
- みんなで災害に立ち向かう態勢づくり(共助)
- 災害に強いまちづくり(公助)
- 災害発生時の対応力を高める(公助)

3-1-6 地域力を活かし、防犯に強いまちづくりを進めます

- 地域防犯力の向上
- 子どもたちを犯罪から守る環境整備
- 危機管理体制の強化

個別目標1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくりま

- 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくりま**
 - 心とからだの健康づくり ●健康を支える保健・医療体制の充実 ●安全で健康な生活の確保
- 1-2-2 ユニバーサルデザインのまちづくりを進めま**
 - 誰にも優しいサービスと情報提供 ●誰もが安心して快適に過ごせるまちづくり
- 1-2-3 障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくりま**
 - 障がいのある人もない人もともに支え合う地域づくり ●障がい者が自分らしく暮らすための支援の充実 ●障がい者にとっての災害時支援体制の確保
- 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくりま**
 - 区民の主体的な生涯学習の仕組みづくり ●学びの成果を活かした支え合いの地域づくり ●歴史・文化を大切にす地域づくり
- 1-2-5 スポーツ健康都市宣言にふさわしい、スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまちをつくりま**
 - スポーツの力で推進する国際交流 ●スポーツでいきいき健康に暮らせるまちづくり ●地域力を活かしたスポーツ振興
- 1-2-6 安定した暮らしと人権を守りま**
 - 人権の尊重 ●男女共同参画の推進 ●生活安定化のための支援の充実 ●暮らしを支える仕組みづくり

個別目標1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま

- 1-3-1 高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくりま**
 - 高齢者の技術・能力の活用 ●高齢者の社会参加・ボランティア・交流の促進 ●高齢者が元気に過ごすための事業の推進
- 1-3-2 高齢者が地域で包括的なケアを受け、安心して暮らせるまちをつくりま**
 - 地域包括ケア体制の構築に向けた支援と連携の充実 ●介護サービスの充実
- 1-3-3 いざというときに高齢者を支える体制をつくりま**
 - 災害時の支援体制の確保 ●緊急時の対応 ●尊厳ある生活の確保

個別目標2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創りま

- 2-2-1 世界へ羽ばたくまちをつくりま**
 - 国際化を活用した産業支援及び文化交流拠点の形成 ●親水性を活かした潤いとやすらぎ空間の創出 ●空港アクセス機能の強化 ●空港周辺の景観づくり
- 2-2-2 未来につながる空港臨海部をつくりま**
 - 空港臨海部のまちづくり ●海辺の親水ネットワークの整備
- 2-2-3 国際都市として交流を育みま**
 - 外国人からも親しまれるまちづくり ●国内外の諸都市との交流・友好親善 ●「国際都市おた」を促進する地域づくり

個別目標2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造しま

- 2-3-1 ものづくり産業を育み、世界に発信しま**
 - 工業集積の維持・発展に向けた支援 ●技術革新・経営革新の支援 ●取引の拡大・海外市場展開 ●ものづくり人材の確保・育成 ●環境に優しいものづくり
- 2-3-2 暮らしを支えるあきないを熱く盛り上げま**
 - あきないのまち基盤整備 ●にぎわい・つながりの創出 ●あきない経営と人材育成 ●環境に優しいあきない
- 2-3-3 ビジネスがしやすいまち大田区をつくりま**
 - 経営基盤の強化支援 ●ベンチャー企業・創業者への支援 ●産業人材の確保・育成、技術・技能の継承 ●産業情報の提供、ネットワーク形成の支援
- 2-3-4 大田区の観光を世界に発信しま**
 - 来訪者受入れ態勢の充実 ●おたの魅力の創出・再発見 ●おたの魅力情報の収集・発信

個別目標3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

- 3-2-1 地球環境をみんなで守り未来へ引き継ぎま**
 - 環境状況調査と情報提供 ●環境を守るための人材とネットワークづくり ●低炭素社会の実現
- 3-2-2 水と緑を感じるまちをつくりま**
 - 水を感じるまち ●緑を感じるまち
- 3-2-3 ごみのない循環のまちをつくりま**
 - ごみを出さない生活への転換 ●資源循環のまちづくり ●事業者処理責任の徹底 ●安定的・効率的な清掃事業の構築

個別目標3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めま

- 3-3-1 行政力を最大限に発揮できる体制をつくりま**
 - 区民に信頼される区政運営に向けた経営改革 ●効果的な政策を立案・実施できる組織づくり ●健全で自律した行財政運営の推進 ●区有施設の利活用の促進と地域拠点化
- 3-3-2 透明性が高く、区民の多様な意見を活かす区役所をつくりま**
 - 区政の透明性の向上 ●区政参画機会の充実
- 3-3-3 地域力を支える区役所をつくりま**
 - 地域情報・区政情報の双方向性の推進 ●便利で頼れる区役所づくり

目標設定と達成状況の把握・評価・公表

基本構想に掲げる将来像を実現するためには、基本計画を着実かつ確実に実施することが重要です。そのためには、目標を適切に設定した上で、計画事業の進捗状況を的確に管理するとともに、施策目標の達成度を評価することが不可欠です。

そこで、未来プランでは、以下のように取り組みます。

(1) 目標設定

未来プラン（後期）では、「5年後のめざす姿」にどれだけ近づいたかを区民の皆さんにわかりやすく、客観的に判断いただける目安としてモノサシ（指標）と目標値を設定しています。

(2) 目標の達成状況の把握・評価・公表

未来プラン（後期）では、これまで実施してきた事業の進捗状況の把握及びモノサシ（指標）による評価に加え、施策評価の視点を取り入れ、「めざす姿」の達成度を評価する新たな仕組みを導入し、公表することで、施策の成果を管理し、計画的な実施を担保していきます。

5年間の財政収支見通し

これまでの経済状況や今後の景気変動、国の税財政制度改革の動きなどを念頭に、基本計画に掲げる事業の実現性を担保していくための見通しを示しています。

●一般会計歳入

(単位:億円)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
特別区税	678	686	693	700	707
地方譲与税等	144	203	227	237	237
特別区交付金	641	607	566	525	525
使用料及び手数料	70	70	71	71	72
国庫支出金	443	447	451	432	430
都支出金	128	140	131	133	125
特別区債	60	82	108	101	93
その他の歳入	256	253	247	247	222
歳入合計	2,420	2,488	2,494	2,446	2,411

●一般会計歳出

(単位:億円)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
義務的経費	1,240	1,253	1,246	1,229	1,215
人件費	448	445	442	429	418
扶助費	720	734	746	752	758
公債費	73	74	58	48	39
投資的経費	304	339	347	313	298
その他の経費	876	896	901	904	898
歳出合計	2,420	2,488	2,494	2,446	2,411

※端数処理の関係で表の合計が合わない場合があります。

大田区10か年基本計画

「おおた未来プラン10年」(後期)の策定にあたって



この5年間には、リーマンショックに端を発した経済情勢の停滞や東日本大震災の発生、少子高齢化の進行、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、区民の皆様の生活や区政に大きな影響を与える社会経済状況の変化がありました。

区は、前期5年間の取り組み成果を検証するとともに、こうした変化に的確に対応し、後期5年はもちろん、その先も見据えながら、区の将来像実現に向けて一層力強く推進する後期プランとしました。

策定にあたっては、おおた未来プラン（後期）策定懇談会や、パブリックコメント、及び区民説明会を通じ、広く区民の皆様から多様なご意見をいただき、作成の参考にさせていただきました。ご意見、ご提案をお寄せいただいた皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

区民の皆様とともに、「地域力」と「国際都市」を区政の推進力とし、大田区の安全・安心と暮らしやすく、にぎわいのあるまちづくりを一層力強く前進させるため未来プラン（後期）を着実に実施してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月
大田区長

松原 忠義



大田区10か年基本計画
おおた未来プラン10年(後期)
～概要版～

平成26年3月
発行/大田区 計画財政部
東京都大田区蒲田5丁目13番14号
電話:03-5744-1124(直通)
FAX:03-5744-1502